

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	札幌情報未来専門学校
設置者名	学校法人 桑園学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	ITシステムエンジニア学科	夜・通信	118単位	9単位	
	インフォメーションテクノロジー学科	夜・通信	96単位	6単位	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 http://www.sapporo-mirai.ac.jp/disclosure.html

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	札幌情報未来専門学校
設置者名	学校法人 桑園学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 http://www.sapporo-mirai.ac.jp/disclosure.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	IT 企業管理職	2020年 6月7日 ～ 2022年 6月6日	「カリキュラム」に関するアドバイス
非常勤	自営業	2020年 6月7日 ～ 2022年 6月6日	「経営」及び「組織運営」に関するアドバイス
非常勤	地方議会議員	2020年 6月7日 ～ 2022年 6月6日	「人材育成」に関するアドバイス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	札幌情報未来専門学校
設置者名	学校法人 桑園学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画(シラバス)の作成過程 科目ごとに授業目標を設定し、2期あるいは3期にまたがる継続科目は、期ごとの授業目標および科目終了時の到達目標を決定する。目標達成のために何を教えるか、どの期で教えるべきかを実務経験のある教員を中心に検討し、現場で必要とされる知識や技術などについて、授業内で展開できるようにする。 また、各科目はPDCAサイクルを取り入れ、1期毎の授業終了後に見直しをかけ、より実践的かつ社会で必要とする知識やスキルを教えることに取り組むようにする。 ・ 授業計画書の作成・公表時期 授業計画は前年11月頃から準備をはじめ、2月上旬完成を目指し、カリキュラム検討委員会で決定し展開する。 ・ 授業の方法(講義、演習、実習) 授業方法は、授業内容を踏まえ講義、実習、演習の形態で実施する。 ・ 授業の内容(授業科目の概要) 授業計画書(シラバス)に詳細の授業内容を掲載し、履修者の学習目標に対応できる内容とし、学習の導きができる資料となっている。 <p>年間の授業の計画(授業回数とスケジュール)</p> <p>各科目の授業計画(シラバス)に単位、授業時数を掲載し、前期15週、後期15週の授業計画を立て、学生には年間スケジュールを毎年度4月に公表している。</p>
<p>授業計画書の公表方法</p> <p>ホームページにて公表 http://www.sapporo-mirai.ac.jp/disclosure.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価においては、「履修規定」に基づき厳格に運用する。また、評価基準に対しては、入学ガイダンス時に資料を用意し周知を図っている。また、各教科の1回目の授業で科目の学習目標と履修目的、評価方法、評価基準を再度学生に伝えることで、評価方法の理解と学習の意欲を喚起している。各期の単位認定は、「単位認定会議」を経て単位認定する。

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 単位認定の評価方法は、該当科目について出席率 80%以上の学生に成績評価がなされ、5段階「S」「A」「B」「C」「D」により評価を行う。「C」以上の評価が科目の合格点となり単位認定され、「D」評価は単位認定されず、必修科目の場合は翌年再履修となる。 客観的な成績評価の指標としてG P Aを取り入れの学生個々の評価と授業全体の評価をする上での判断資料として役立てる。各個人のG P Aは「成績の分布を示す資料」として本人の成績評価位置を示す。学生にはG P Aの算出方法をサンプルで示し、自分の学習成果の指標として理解させて、今後の学習指導に役立てる。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	ホームページにて公表 http://www.sapporo-mirai.ac.jp/disclosure.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定は、全学科を通して必修科目が単位認定されていること。総単位数及び総授業時数がクリアされていることが必要となる。 3年課程のITシステムエンジニア学科の卒業基準単位数は、一般科目、専門科目を合わせて150単位以上、かつ授業時数2,700時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。 2年課程のインフォメーションテクノロジー学科の卒業基準単位数は、一般科目、専門科目を合わせて100単位以上、かつ授業時数1,800時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。 進級条件は、各学年で配当されている必修科目を履修し、その学年で単位習得しなければ進級できない。単位習得できなかった者は、翌年再履修しなければならない。学生には、入学ガイダンス時に、資料を用いて詳細に説明する。また、年度末の個人面談にも、取得単位、出席時数について確認し合い、今後の履修科目の取得指針とし、卒業要件を意識させている。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページにて公表 http://www.sapporo-mirai.ac.jp/disclosure.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	札幌情報未来専門学校
設置者名	学校法人 桑園学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 http://www.sapporo-mirai.ac.jp/disclosure.html
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	ITシステム エンジニア学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,700 単位時間 ／150 単位	2,520 単 位時間/ 168 単位	1,020 単 位時間 /34 単位	540 単位 時間/ 18 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			4,080 単位時間／220 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		24人	0人	4人	2人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は、科目内容に講義、実習、演習の形態で実施される ・授業の内容(授業科目の概要)は、授業計画書(シラバス)に掲載されており、教務計画の通り作成し、学生に展開をしている。授業計画書は本校 Web 上で公開する。 ・年間の授業計画は、前期 15 週、後期 15 週の授業週間をとり、その他学校行事日程を組み込む。学校行事日程は授業計画書(シラバス)と一緒に学生に展開される。
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価方法は該当科目について出席 80%以上の学生に対し成績評価がなされ5段階「S」「A」「B」「C」「D」により評価を行う。「C」以上の評価が単位認定され、「D」評価は単位認定されず、必修科目の場合は翌年再履修となる。</p> <p>評価方法は、単位認定試験結果、演習課題評価と提出状況、授業態度など科目担当講師が複数の評価方法を組み合わせて決定する。</p>

卒業・進級の認定基準
(概要) IT システムエンジニア学科の卒業基準は、各学年で用意されている必修科目を単位認定されていることと、一般科目および専門科目を合わせて 150 単位以上かつ授業時数 2,700 時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。 進級条件は、各学年で設定されている必修科目を履修し、その学年で単位習得しなければ進級できない。単位習得できなかった者は、翌年再履修となることから留年が確定となる。
学修支援等
(概要) 前期・後期の科目履修指導および履修相談、放課後の補講、長期休み期間の補講実施、資格試験対策も同様に実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) IT 企業（プログラマ、システムエンジニア、ネットワークエンジニア等）			
(就職指導内容) 一般常識、履歴書作成指導(志望動機、自己PR、得意科目など)、面接練習等			
(主な学修成果(資格・検定等)) 国家試験(基本情報技術者試験など)、民間資格(サーティファイ検定: Word、Excel、Access、PowerPoint、Web クリエイタ、Java 言語検定、C 言語検定など)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	3人	16.7%
(中途退学の主な理由) 担任からの日々の指導および家庭からの指導にも係わらず怠惰な生活を繰り返し、出席率不足から単位を取得することができなかった。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 生活指導を重視し、遅刻・欠席が増えた学生に対する面接及び指導、父母への連絡などを行い学校と家庭が連携して指導を行っている。		

②学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	インフォメーション テクノロジー学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800 単位時間/ 100 単位	1,590 単 位時間/ 106 単位	1,290 単 位時間 /43 単位	150 単位 時間/ 5 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3,030 単位時間/154 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		25 人	人	4 人	2 人	6 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業方法は、科目内容に講義、実習、演習の形態で実施される ・ 授業の内容(授業科目の概要)は、授業計画書(シラバス)に掲載されており、教務計画の通り作成し、学生に展開をしている。授業計画書は本校 Web 上で公開する。 ・ 年間の授業計画は、前期 15 週、後期 15 週の授業週間をとり、その他学校行事日程を組み込む。学校行事日程は授業計画書(シラバス)と一緒に学生に展開される。
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価方法は該当科目について出席 80%以上の学生に対し成績評価がなされ 5 段階「S」「A」「B」「C」「D」により評価を行う。「C」以上の評価が単位認定され、「D」評価は単位認定されず、必修科目の場合は翌年再履修となる。</p> <p>評価方法は、単位認定試験結果、演習課題評価と提出状況、授業態度など科目担当講師が複数の評価方法を組み合わせて決定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>インフォメーションテクノロジー学科の卒業基準は、各学年で用意されている必修科目を単位認定されていることと、一般科目および専門科目を合わせて 100 単位以上かつ授業時数 1,800 時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。</p> <p>進級条件は、各学年で設定されている必修科目を履修し、その学年で単位習得しなければ進級できない。単位習得できなかった者は、翌年再履修となることから留年が確定となる。</p>
学修支援等
<p>(概要) 前期・後期の科目履修指導および履修相談、放課後の補講、長期休み期間の補講を実施、また、資格試験対策も同様に実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) IT企業（プログラマ、システムエンジニア、ネットワークエンジニアなど）			
(就職指導内容) 一般常識、履歴作成指導（志望動機、自己PR、得意科目など）、面接練習など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 国家試験（基本情報技術者試験など）、民間資格（サーティファイ検定：Word、Excel、Access、PowerPoint、Webクリエイタ、Java言語検定、C言語検定など）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 生活指導を重視し、遅刻・欠席が増えた学生に対する面接及び指導、父母への連絡などを行い学校と家庭が連携して指導を行っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
ITシステム エンジニア学科	250,000円	520,000円	420,000円	
インフォメーション テクノロジー学科	250,000円	520,000円	420,000円	
修学支援（任意記載事項） 母子・父子世帯支援、再進学支援、家族支援 該当者は、初年度に10万円を支給				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.sapporo-mirai.ac.jp/disclosure.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
<p>(1) 本校の教育活動、学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、教育方針、カリキュラム、授業運営、就職結果等について改善を図り、社会に必要な人材を育て送り出すことを目的としている。</p> <p>(2) 実施は年に一度、3月に委員会を実施する。</p> <p>(3) 委員会は、3名の外部委員と内部委員2名の計5名で構成している。</p> <p>(4) 学校関係者評価委員は、業務について教職員による自己点検結果を集計し改善案、計画案を策定する。これを基に委員会に事前配布し委員会にて意見をいただき評価と修正を行う。</p> <p>(5) 評価いただいた結果で、改善が必要な項目については優先順位を決め、学校長を責任者として早期に実施する。時間を要する事柄については内部委員で計画案を策定し段階的に実施する。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人監事	2019年4月1日～ 2021年3月31日	業界関係者
IT企業幹部	2019年4月1日～ 2021年3月31日	業界関係者
IT教育講師	2019年4月1日～ 2021年3月31日	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.sapporo-mirai.ac.jp/disclosure.html		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.sapporo-mirai.ac.jp
--